# 第六十六日目

師　範：日英同盟に勇気付けられた日本は，ロシアとの戦いを進めます。
ロシアの進出はとまらなかった。
強国ロシアと戦うには，大変な資金が必要でした。
しかし欧米での資金調達はなかなか進まず，困っていました。

ばく大な「借金」をしていましたが，協力したのはロシアを警戒する国でした。
もし勝ったら賠償金を取って返済する計画でした。
そして本当にたくさんの兵士を失い，食糧も兵器も底をついてきました。
海軍はロシア艦隊を破って勝利しました。
そこで講和条約を急いで結びたかった日本。
ロシア皇帝は，敗北を認めなかったが，国内では反乱が起こり，戦争を続けることは難しくなっていました。
日露戦争は１９０４年の２月から始まり，翌年の７月まで続きました。
講和会議は８月から始まりました。

**１９０４年　日露戦争がはじまる。**

この年を覚えましょう。

コン太：お父さんは

**「ひとつくれよう露にげんこ」**

と覚えたそうです。「ひとつ」は１，「く」は９，「れ」は０，「よ」は４ですね。
言うことを聞かないロシアに制裁のげんこつをゴツンとくれてやろうといものだそうです。

ペン太：ぼくは

**「トークをしないで戦う日露」**

**「日露は　トークをしないで　戦った」**

**「戦いで　日露のいずれが　得をした」**

「トーク」は１９です。とお＋く。「を」は０，「し」は４です。

師　範：ペン太君は新しい言い回しを見つけましたね。
話し合いをしないで戦争を選んだ日本とロシアということですね。
うまく言えましたね。